

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1293200067 | | |
| 法人名 | スターツケアサービス株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームきらら当代島 | | |
| 所在地 | 千葉県浦安市当代島2-22-29 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年10月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年2月15日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>ご入居様一人一人に合わせた日々の送り方、過ごし方によって支援を行っている。またADLや認知レベルが低下してきているがそれでもご本人が出来ている、続けられる事を見つけ外出対応や散歩、日課に繋げている。ユニットのスタッフ同士でご入居者様がより良い暮らしが出来る様、アイデアや意見を出し合いご入居者様の生活の質の向上を目指し取り組んでいる。</p> |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 株式会社アミュレット |
| 所在地 | 東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階 |
| 訪問調査日 | 平成25年12月18日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>「地に足をつける」を今期の事業所スローガンに掲げ、「職員のスキル向上」、「地域交流」、「稼働率の確保」を優先項目に掲げ、四半期ごとに達成状況を振り返りながら運営を進めている。特に職員のスキル向上の向け、毎月の施設内勉強会が定着しており、職員間でテーマを考え発表する「ポスター研修」を取り入れるなど、研修内容の工夫も図られている。地域交流においては2カ月に一度の運営推進会議に自治会長の参加もあり、地域情報の収集が昨年度と比較し拡充した。ホームの強みである個別支援を継続し、職員のスキル向上や地域交流の充実に前向きに取り組んでいる事が窺えた。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 企業理念の唱和を全スタッフで行っている。全スタッフが企業理念の把握はまだ難しい。実践にはまだ活かせていない。 | 企業理念、運営理念を事務所に掲示し、毎朝の唱和を通じて理解が深まるように取り組んでいる。また、事業所のスローガン「地に足をつける」を掲げ、職員のスキル向上、地域交流充実、稼働率の確保を優先項目に掲げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近所の方との付き合いを継続しているも来設するまでには至っていない。 | 保育園児との交流や地域の盆踊り、自治会主催の防災訓練への参加等を通じて地域との関わりを深めている。また、自治会長が運営推進会議に参加され、地域情報の収集も拡充した。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方へ認知症の支援方法を伝える等には行っていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 意見等を汲み取りケアへ活かしている。 | 運営推進会議は2カ月に一度定期的を実施している。会議には、自治会長、市の介護保険課、地域包括支援センター、介護相談員、利用者、家族の方が参加し、毎回テーマに沿って、参加者との意見交換を図っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 取り組んでいる。 | 市の介護保険課との連携では、運営推進会議で助言を頂いたり、運営上の相談や事故報告等において連携し、協力関係を築けるよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施設内研修や日頃のスタッフ同士の気付きで身体拘束を行わない様努めている。一時期、離接や帰宅願望がとても強いご入居者様の事故防止対策として中扉のみの施錠をおこなっていた。現在は行っていない。 | 利用者の安全確保を図るため、玄関については施錠しているが、施錠をする事による弊害について職員は理解しており、外に出たいとの要望がある場合には、職員が付き添い、一緒に外に出る事ができるよう支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に研修を行い、虐待防止に努めている。 | | |

グループホームきらら当代島(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|------------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 学ぶ機会が少なく、支援や活用に活かせていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 図れていると思う。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の面会や運営推進会議でご家族様の意見や思いを聞く場を設けている。 | 家族からの意見については、面会時に直接伺うほか、家族交流会(年2回)において意見や要望を収集している。また、ホーム玄関先に意見箱を設置しているほか、ホーム内外の苦情窓口について契約時に家族の方に説明している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | あまり機会が無く反映には繋がられていないと思う。 | 上期・下期の年2回「目標管理シート」を記入し、「目標管理シート」の内容に沿って、リーダー、ホーム長と面談を実施している。面談を通じて職員からの意見を収集するほか、毎月の全体会議やユニットミーティング、3カ月に一度職員親睦会を実施しチームワーク強化を図っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々に合わせ努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | スタッフ一人一人に合った目標や力量に合わせた指導を行えている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修参加によって向上に努めている。 | | |

グループホームきらら当代島(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | アセスメントを行い職員間でもどのような支援が必要なのか情報交換を行い、職員で関係の構築に努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 御家族との関係も利用者様との関係と等しいと考えている。困っていることや要望には出来る限り応える努力をしている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 話を良くすることによって必要なサービスが密着するように努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来ることを尊重し、一方的な関係にならない様努めている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 生活歴を念頭に置きつつ、御家族が来設された時や電話があった際などに話をすることで、一緒に問題解決をし支え合えるように努めている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご入居様の友人からの電話の取り次ぎや、地域の行事に参加などの支援を行っている | 馴染みの人や場との関係が途切れないような支援では、利用者が以前通っていたパン屋にお連れし飲食を楽しむことができるように支援するほか、家族と友人との時間を過ごす事が出来るように支援する等、関係性の継続に向けた支援を図っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 相性の良し悪しもあるので職員が適度な距離を保ちつつ介入し、孤立などが無いようにしている | | |

グループホームきらら当代島(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 経過フォローや相談をあまり行っていない | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常日頃から努力をしているが本人本位にならないことも多い | 利用者の思いや意向については、日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者の意向や要望を引き出し、ケアプランに反映し利用者の本位の支援が図れるように取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 御家族に話を聞いたり、これまでのサービス事業所からの情報も得ながら行っている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録やユニット日誌、または申し送り等で把握するようにしている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成者が行い全スタッフの意見を汲み取れていない。現状に追いついていないケアプランもある | アセスメントの結果を踏まえ、担当者会議において職員からの意見を踏まえケアプランを作成している。作成後家族に説明し同意を得ている。ケアプランの進捗状況は毎月モニタリングを行い、利用者の満足度を確認している。 | ケアプラン1表に同意の記名、押印が抜けているケースも確認できたため、再度確認されることが望まれる。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録に関してはまだ不十分な点が多い。気づきがあっても介護計画に全ては反映しきれていない | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 状況や内容によっては取り組んでいる | | |

グループホームきらら当代島(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源をまだ活かしかけていない | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 御家族様の意見を汲み取り、それを踏まえて受診対応を行っているが、御家族からの不信感の声も上がっている | ホーム提携先医療機関による往診が月2回あるほか、主治医とは24時間連絡が取れる体制を築き、利用者の体調変化時にも迅速に対応できる体制としている。また、訪問看護(月2回)、訪問歯科(週1回)とも連携を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月2回行えている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | リーダー、ホーム長でアセスメントやお見舞いに行き現状を把握している。医療機関との連携は図れている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | まだ重度化の方はいないが入所時に御家族には説明をしている。チームで取り組むまでには至っていない | 重度化や終末期に向けての方針は、契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を基に説明し、「医療連携体制加算同意書」を交わしている。生活していく中で重度化や終末期をむかえた際には、家族、主治医と今後の方針について協議することとしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 研修で行っているが全スタッフが実践できるかは不安がある | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 職員の入れ替わり等もあり新しい職員は身につけていない | 火災や地震を想定しての避難訓練を年2回実施している。その他地域の防災セミナーに職員が参加したほか、地域の協力体制についても運営推進会議等を通じ協力を呼び掛けている。 | |

グループホームきらら当代島(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人を尊重した対応や、言葉掛けに努めているが、そうではない対応の時も見られる | 利用者に対して不適切な発言があった際には職員間で注意し合う関係づくりを構築している。プライバシーの配慮では、居室に入室する際にはノックや一声かける事を徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 言葉掛けを二択にするなどの工夫をし働きかけている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | アセスメントを踏まえ、日課表に沿った支援を行っている | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | いつも決まった衣類にならない様にするこことや、ご自身で服を選んでもらうなどの支援を行っている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様の出来る事を最大限に活かせるように職員と共に行っている | 食事の準備では、買い物から調理準備に至るまで利用者も関わりなが準備を進めている。食事メニューについても利用者の要望を反映させている。食事を楽しむ工夫では、各ユニットで出前や外食、出張シェフなどの取り組みもある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量や水分量などは毎日記録をして状態に合わせて対応している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 拒否が強い方は困難な場合もあるが、ほぼ行えている | | |

グループホームきらら当代島(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄もチェックし記録をつけている。排泄パターンを掴み誘導や言葉掛けにより失敗を減らす努力をしている | 利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズムパターンシート」に記入し職員間で情報を共有している。排泄に関しては、定時の声かけや誘導によりトイレで排せつできるように支援している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 通じを促す飲み物や繊維質の食べ物を提供するなどして取り組みは行っているが、解決にはつながっていない | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人一人の希望やタイミングに合わせた支援は難しいのが現状 | 利用者の生活リズムを整えるために、入浴日はある程度決まっているが、利用者の体調や要望等を考慮して入浴できるように支援している。入浴中は職員が見守り、介助につき安全に入浴できるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の過ごし方の工夫などを行っているが、眠剤の使用が必要な方もいる | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員一同、薬については処方薬についての情報を得る努力をし、少しの変化も見落とさない様に支援をしている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 趣味や好む話題事柄をケアへ応用し対応する事で張り合いや喜びに繋がられていると思う。外出や行事を行う事で気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 御家族やスタッフ共に行えている。しかし御家族の外出対応には差があるのが現状 | 近隣の公園までの散歩やスーパーでの買い物を目課とし日常的に外出できるように支援している。また各ユニット行事係を中心に行事計画を立て、外泊旅行やホテルやレストランでの外食、個別支援を通じての外出や外食など利用者の希望を尊重し戸外に出かけられるよう支援している。 | |

グループホームきらら当代島(1階)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 支払や金銭を所持したいご入居様が現在はいないが以前は自分の買い物をしたい方へ所持金を渡して必要な支援を行っていた。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 個人の電話機を使用している方が1名しかいないが電話の取次ぎ等必要な支援を行っている。個人宛ての手紙をご入居者へ渡し、読まれるまでの対応を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 状況に適した温度や光を心掛けている。スタッフの気付きが薄く、室内が暗かったり適した温度でない事もあるがスタッフ同士で指摘し合い心地良い環境に出来る様努めている。 | リビングのソファやテーブルの位置に関しては、利用者の状態や動きに合わせて配置している。リビングには季節に合わせて花を飾り、装飾も華美になりすぎないように配慮している。トイレや浴室も清潔に保たれており、安全面、衛生面にも配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ご入居様その時々に合わせて落ち着いた所へ誘導したり、他の方と話したい様子な時はスタッフが介入し談笑の場を設けたりと、全スタッフが常に状況に合わせて対応出来ている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの物を居室に置いておける様、ご家族様へ伝えている。ご入居様が居心地が良く過ごせる様努めている。 | 居室には利用者がこれまで使い慣れた家具や馴染みの物の持ち込みを可能としている。自宅の部屋のように使用できるように家具等の配置も利用者や家族の要望を踏まえ、居心地良く過ごせるように配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご入居様が無理なく出来る事を行える様に全スタッフ取り組んでいる。毎日同じ事を行って頂けたり、拒否が無い事が理想であるが上手い出来ない事も多く課題が残る。 | | |